ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成26年2月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2014年 Feb NO.33 2

Pick up 進む災害公営住宅の建設

初春を迎えたふるさとの風景を伝えます。

今月の子どもたち　豊間小学校2年生

写真左から／三瓶愛実（まなみ）ちゃん、高橋星陽（せいや）くん、門馬響（ひびき）くん、荒川愛海（あみ）ちゃん

久之浜・大久

夫婦二人三脚〈新谷焼〉
母校での地区成人式

四　倉

市漁協四倉支所長に聞く
にぎわう大野観光いちご園

平

修学旅行の生徒との交流
初婿に手荒な祝福・水祝儀

小名浜

UDOK.に集う若者たち
(仮称)竹町通りについて

勿　来

空から見たいわきの風景
「つるし雛姉妹展」開催

使いやすさを追求して

新谷窯　新谷辰夫さん 文代さん夫妻

夫婦二人三脚で創作活動

大久町アンモナイトセンターにほど近く、道端に〈新谷窯〉の看板と茅葺の屋根が見えてきます。杉と竹にはさまれた小路を進むと目の前に広がる築300年程の古民家。新谷辰夫さんと文代さんご夫妻の自宅兼作業場です。

四倉出身の辰夫さん、高校を卒業後に就職した自動車会社を退職し、益子焼の窯元で修行。そこで知り合った文代さんと結婚し、昭和52年現在の地で窯を開きました。以来37年、茶碗、湯のみ、急須など日々の生活で使う日用雑器を中心に二人で創作活動を行ってきました。「主に日常使う器を作っているから、いかに手になじむか、使いやすさを追求している」と辰夫さん。

震災で創作が一時中断

3年前のあの日、お客さんが来ている最中、大きな揺れが新谷窯を襲いました。さすがに築300年の母屋は地震にもびくともせず、被害は商品棚にあった角皿1枚と離れた場所にある薪窯が少し崩れただけですみました。しかし、地震の被害より原発の存在が頭をよぎり翌日には四倉にある辰夫さんの実家へ。その後文代さんの実家のある群馬県伊香保、そして東京へと避難生活は一年半に及びました。知り合いの陶芸家の作業を手伝いながら、このままではいけないと帰郷を決意。再び窯に火が入れられました。震災以前と同様、日用雑器の制作や新たな創作。久之浜二小の5・6年生を対象にした新谷焼の体験教室なども開催し、夫妻にも日常が戻りつつあります。

震災を経た今、創作に向けて

「震災をきっかけに、優しくなれたと思うの。そして、支援してくれた方のおかげで自分を覆っていた何かをはがして自分を出せるようになってきた」と話す文代さん。「震災の時は、まさにダウンした状態。困った時は原点に帰れば良い。今やっと立ち上がることができた」と辰夫さん。冬のこの時期、火の気が全く無い作業場はとても寒く、もっぱら囲炉裏と窯用の薪の切り出し作業に追われています。春からの創作と震災の年以外毎年開く個展へ向けて「アイディアが湧き上がっている」と言う文代さん。辰夫さんも「体力的に続く限り大物にも挑戦していきたい」と抱負を話してくれました。

11月29日に久之浜二小で開かれた作品鑑賞会で力作が披露されました

久之浜二小5・6年生の体験教室のひとコマ。辰夫さんの指導で初めてのろくろ引き

お知らせ

東日本大震災 久之浜・大久地区追悼供養

東日本大震災から3年を迎えるにあたり、犠牲となられた方々を追悼し復興への誓いを新たにするため、久之浜・大久地区として追悼供養を行う予定です。

日時・3月9日(日)午前10時から
場所・稲荷神社付近

お問い合わせ　久之浜・大久支所
☎0246-82-2111

子供らの安全と健康を願って

鬼は外!福は内!豆まきで退治され改心した?鬼さんから子どもたちにお菓子のプレゼント(久之浜保育所にて)

28回を迎えた久之浜・大久地区防犯協会(鈴木豊会長)の防犯だるまの贈呈(久之浜第一幼稚園にて)

復興へ向けた動き

久之浜 大久

生活再建へ向けまた一歩前進 区画整理域内で仮換地指定

久之浜町内で進む津波で被災した家屋等の基礎撤去作業。土地区画整理地域内の地権者に対し、現在の土地に代わる新たな土地の仮換地指定がされました。これにより、津波で自宅を失った方々の久之浜での生活を再建する場所が決まり、復興へ向け工事も本格的に始まります。3月までに家屋基礎等の撤去を終え、4月から宅地整備が始まり、防災緑地帯、道路の拡張などへと整備が進んでいきます。

復興対策協議会 グランドデザイン策定部会

昨年10月の設置以来、月2回のペースで会議が開かれている久之浜・大久地区復興対策協議会(吉原二六会長)の復興グランドデザイン策定部会。昨年協議された7つのテーマ別まちづくり方策などを、過去6回の協議内容をもとに再整理した「たたき台」が1月15日の会議で提出されました。項目ごとの再検討が進み、復興グランドデザイン策定に向け協議もいよいよ大詰めを迎えています。

本格操業の早期再開を願って 久之浜漁港で出初式

1月8日、市漁協久之浜支所の出初式が久之浜漁港で行われました。

震災以前は大漁旗を掲げた漁船が出港し豊漁と航行の安全を祈願していた出初式。今年も昨年同様神事のみが執り行われました。「魚種の増加や現在行われている底引き網漁以外の船引き網や刺し網漁などの実施、そして漁場の拡大を目指し、一歩一歩本操業に向けて前進して行きたい」と江川章久之浜支所長が新年の抱負を述べました。

漁業関係者約50名が参列し久之浜漁港で行われた出初式。玉ぐしを奉納する江川支所長

建物土台の基礎工事が進む災害公営住宅

重機による家屋基礎等の撤去が進む久之浜

防災集団移転先となる土地の造成も終了し、地盤強化のため重しとして土盛りされています(写真右:末続、左:金ケ沢の移転先造成地)

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

●測定日:平成26年1月27日(天候:晴れ)
●測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
●測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172 (シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上1cm	地上100cm
田之網(田之網集会所)	0.09	0.08
南町(旧道沿い中央部)	0.08	0.08
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.08	0.08
北町(久之浜駅前)	0.12	0.10
東町(旧久之浜漁協前)	0.11	0.07
西町1区(西町公園付近)	0.12	0.12
西町2区(久之浜一小正門付近)	0.13	0.12
金ケ沢(鹿野付近)	0.18	0.16
末続(末続駅前)	0.16	0.14
大久(大久公民館付近)	0.19	0.16
筒木原(久之浜二小西門付近)	0.12	0.12
小久(町田橋付近)	0.16	0.17
小山田(小山田集会所付近)	0.16	0.14

単位はすべてμsv/h

※㈱東北イノベーターのHP http://www.thkinnovator.co.jp/ でより詳しい放射線情報をご覧いただけます。

懐かしの母校で恩師旧友と 久之浜・大久地区成人式

1月12日、久之浜・大久地区成人式が開かれ、51名(男25、女26)が出席しました。会場は新成人たちの母校、久之浜中学校の体育館。新成人を代表し飯高萌恵さんが「これからは、より良い故郷にするため、夢・目標・未来に向かって努力と精進を重ねていきます」と宣言しました。

式の後は、久之浜町婦人会と農協女性部による給食の人気メニューだったツナごはんと揚げしそ餃子のお弁当を食べながらの記念行事。20歳の新たな門出の日、恩師そして旧友たちと共に語らい楽しい時を過ごしていました。

該当新成人58名のうち出席者は51名。三和、遠野に次いで高い出席率でした

恩師を囲み、給食のメニューを再現したお弁当を食べ昔話に花が咲きます

「津波で市場の機能が失われたけれど、四倉の船で獲った魚は、いずれは四倉の港に水揚げしたい」と話す鈴木三則さん。第三仁洋丸の船上にて

一日も早い本格操業を目指して

いわき市漁協四倉支所長
鈴木三則（みつのり）さん

がれき撤去で仲間同士のコミュニケーション図る

午前11時を回る頃、漁港の目の前にあるプレハブの事務所に、試験操業や海底のがれき撤去作業を終えた漁業者が集まってきます。

「試験操業は今のところ週に1回だが、がれきの片付けが週に1～2回程度あるので、ここに集まった仲間とのコミュニケーションの場になっています」と、市漁協四倉支所長の鈴木三則さん。ただ、がれき撤去は予算の都合で1月末で終了してしまうため、「みんな元気でやっているか、顔を合わせるいい機会だったんだけどね」と、残念そう。

震災時、鈴木さんの船「第三仁洋丸」は津波の引き波で係留していたロープが切れて、沖合いに流されました。漂流していたところを仲間の船に発見され、沈没は免れたものの、機関部に水が入るなど大きく壊れていました。

「船は商売道具だから急いで修理したんだけど、震災当時は、まさか漁業再開までにこんなに時間がかかるとは思わなかった」

試験操業で再び味わった魚が獲れる喜び

震災後、原発事故の影響で福島県沖の操業を自粛する中、漁業者の皆さんは魚介類のサンプリング調査や海底のがれき撤去に取り組む日々。

しかし震災から2年7ヵ月経った昨年10月18日、初めての試験操業が行われました。

市漁協試験操業検討委員長も務める鈴木さんは、「魚を獲るために海に出られた喜びは、同じ出港でもがれきの片付けとは全然違うよ」と当時を振り返ります。

昨年は6回実施した試験操業は、今年も天候を考慮しながら行われています。水揚げする魚種を増やしたり、操業海域をより沿岸部に拡大するなど、少しずつ明るい話題もありますが、東電福島第一原発の汚染水問題が、まだ先が見えない状態。

「一日でも早い本格操業のためにも、国が前面に出て汚染水問題に取り組んでもらいたいね」と、強く訴えています。

1月28日、最後の海底がれき撤去作業を終えた漁業関係者。誰もが一日も早い本格操業を望んでいます

市漁協四倉支所の建物は津波で全壊したため取り壊され、地盤沈下した岸壁を補修する盛土工事が行われました

水沼貴史さんが大浦小でサッカー教室

キリン㈱の「復興応援キリン絆プロジェクト」は、日本サッカー協会の協力で、宮城・岩手・福島の小学校を対象に、「JFA・キリンスマイルフィールド」を開催中です。

1月30、31日は元サッカー日本代表選手の水沼貴史さんらが大浦小学校を訪れ、サッカー教室が行われました。

児童たちはボールを使った簡単な遊びやドリブルやヘディングでウォーミングアップをした後、ミニゲームなどで元気いっぱいに体を動かしました。

コーチチームが相手のミニゲームでは、ゴールを必死に守ろうと頑張りました

「ボールをよく見て！」と、特別コーチとして子ども達に熱血指導する水沼貴史さん

四倉 復興へ向けた動き

災害公営住宅 工事進捗状況について

上仁井田の四倉団地は151戸が建築中です。

内訳は集合住宅が130戸（2LDKと3LDKが各65戸）、戸建て住宅が21戸（2LDK10戸、3LDK11戸）。

集合住宅の1・2号棟は平成26年7月、3・4号棟と戸建て住宅は、同年10月の入居開始を目指して、工事が進められています。

入居説明会は、入居予定時期のおおむね2ヵ月前をめどに実施しており、1・2号棟は5月上旬、3・4号棟と戸建て住宅は8月中旬を予定しています。

1日も早い入居に向けて、着々と建築工事が進められている四倉団地（1月24日撮影）

仁井田川の堤防 かさ上げ工事始まる

四倉地区の南部を流れる仁井田川の国道6号から下流の右岸（705・5m）では、県いわき建設事務所河川砂防課が、昨年9月から堤防のかさ上げ工事に着手しています。

左岸堤防（843・6m）と、横川と合流以降の右岸堤防（371・0m）の災害復旧とかさ上げについては同復旧・復興課が担当します。

この事業は、今後整備される海岸堤防の高さが、従来のTP（東京湾平均海面）6・2mから7・2mになることに合わせて行われています。

堤防のかさ上げ工事が進む仁井田川の右岸。国道6号の松葉橋から撮影

四倉点描　1月の情景

8日 伝統行事

正月恒例のだるま市が行われた北辰妙見尊の参道には、縁起物のいわきだるまや熊手を売る店が並びました。

12日 大人への第一歩

〈いわき海浜自然の家〉で行われた成人式には、四倉中と大野中を卒業した146名が緊張した様子で参加しました。

25日 堂々と意見発表

「第22回四倉地区青少年健全育成推進大会」で、小・中・高の代表の児童、生徒が意見発表をしました。

フラガールとフラボーイが幼稚園を訪問

勿来工業高校のフラ愛好会が1月14日、四倉第一幼稚園を訪問しました。同会は震災後、福祉施設や仮設住宅などを訪れて、フラダンスやタヒチアンダンスを披露しています。

この日参加した男子3名、女子4名のメンバーたちは「カ フラ パパホロイ」、「フラガール～虹を～」など14曲のダンスを披露。

「月の夜は」では高校生たちに教えてもらいながら、園児たちも一緒に踊りました。

高校生と一緒に、ダンサーになった気分で体を動かした園児たち

温室で真っ赤ないちごが待ってます

四倉町玉山にある〈大野観光いちご園〉は大野水耕生産組合が運営し、主に「章姫（あきひめ）」「ふくはる香」「紅ほっぺ」などを栽培しています。

昨年12月下旬から今シーズンが始まり、連日、観光客や幼稚園の子ども達などが温室を訪れ、たわわに実ったいちごを味わっています。

同いちご園では6月上旬までいちご狩りが楽しめます。

この日は西小名浜幼稚園の園児、先生、保護者らが訪れて、いちご狩りを楽しみました

お知らせ

■ **3月8日（土）、9日（日）**
道の駅よつくら港で、NPO ふくしま震災孤児・遺児を見守る会、NPO よつくらぶによる子ども達を対象としたイベントを開催予定。

■ **3月11日（火）　13：30～15：30（予定）**
四倉小6年生が、防災緑地に植樹予定のオリーブの木を植え付けます。チャイルドハウス周辺ではレモンの木の記念植樹、道の駅よつくら港周辺では花苗100～150ポットを植栽します。

「被災地の現状を知る」修学旅行で訪れた高校生と交流

1月8、9日の両日、福岡県立修猷館高等学校の2年生365名が修学旅行で本市を訪れました。

同校では震災前は、信州方面へ修学旅行をしていましたが、震災後、当時の学校長が東日本大震災の被災地を知ることが教育に必要として、東北方面に行き先を変更。3回目の被災地への修学旅行となる今年は、訪問先の一つに本市が選ばれました。

6日に宮城県へ行き、スキー教室や被災地研修などをして、8日に本県入りし、会津方面といわき市に分かれ、風評対策や沿岸部の被災状況を視察しました。

9日は、〈スパリゾートハワイアンズ〉で、豊間、薄磯地区の住民30名、市職員、消防、警察関係者など計60名が参加し、生徒と共にグループトークを行いました。

地震が起き、津波が押し寄せてくる様子や倒壊した家から助けを求める声など、震災時を思い出しながら話す住民の生の声に、生徒たちは涙を流しながら真剣に話を聞いていました。

生徒代表は「報道では見えない、被災地の貴重な生の声が聞くことができました。福岡に帰ってからも周囲に伝えていきたい」と感想を述べました。

参加した住民も、普段は心の中に留めている震災の記憶や思いを、修学旅行生へ言葉として伝えることで、気持ちが楽になると話していました。

他地域との交流は、お互いに貴重な機会となり、良い効果を与えあったようです。

グループトークでは、どの班も話す方も聞く方も真剣になっていました

豊間で民宿を経営していた鈴木利明さん(手前)は、震災時に自分で撮影した写真を持参して分かりやすく話していました

生徒代表より地元住民や関係各位に心からの感謝の言葉が贈られました

初婿を手荒に祝福

「いい結婚の記念になりました。町に賑わいがあり地域も元気になれば」と永山さん

大根で作られた魔除けの判子が祭りの参加者の額に押されました

1月13日、沼ノ内愛宕神社で「水祝儀」が行われました。

水祝儀は沼ノ内地区に約400年続く伝統行事で、前年に結婚した初婿が浴衣1枚になり「桶取り」と呼ばれる独身の若手に四方から、足、腰、頭の3回水をかけられる奇祭。別名「水かけ祭り」とも呼ばれ、いわき市の無形民俗文化財に指定されています。

この祭りは、余りにも奇祭のために200年位前に一度取りやめられましたが、その年に地区内で大火があったことから、伝統を守り継承することが大切なことだと続けられてきました。

今年は、山廼辺(やまのべ)健さんと永山定利さんの2名が選ばれ無病息災、家内安全、そして震災復興を祈願しました。

四方から「桶取り」に勢い良く冷水が浴びせられると、周囲から歓声が響きます

「この1年楽しく過ごせます」と山廼辺さん。奥様から「少しかわいそう」とねぎらいも

「海まち・とよま市民会議」

昨年9月に発足した「海まち・とよま市民会議」では豊間、薄磯、沼ノ内の3地区によるグランドデザインを策定するため、各テーマに沿って話し合いを行っています。

1月16日の第9回の会議では、前回のテーマの「安全・安心」と「子育て」を振り返り、新しい項目をそれぞれ付け加えて、「産業・雇用」と「生活・コミュニティ」の課題に取り組みました。

日本大学の学生制作のジオラマを参考にしながら話し合いました

日曜市から仮設店舗へ

平成25年6月から毎月第1日曜に計8回開催してきた、「豊間日曜市」が今年1月12日で終了しました。

豊間区では仮設店舗準備として1月18日に公民館で、「かーちゃんの力を発揮する」「ひとりひとりが特産品づくりに参加する」の2部構成でワークショップを開催。婦人会や一般参加者が町の新しい特産品開発について、色々な意見を出し合い交流しました。26日には県内の道の駅の視察を行いました。

仮設店舗は現在のふるさと豊間復興協議会の駐車場に飲食ブース、日用雑貨、簡易宿泊施設などを整備し、6月に開店を予定しています。

最後の日曜市。餅つきでイベントを盛り上げました

復興へ向けた動き

豊間・薄磯井戸御祓い神事

1月25日、薄磯薄井神社、豊間諏訪神社において、区画整理事業にともなう、井戸の埋め戻しの神事が行われました。

両地区内ともかつて、全戸に井戸があり、大切にされてきたことから、工事業者主催でそれぞれの神社でお祓いをしました。住民たちは、お祓いを受けた梅の枝と葦の葉で作られた、おまじない物の「梅て葦（うめてよし）」を井戸の中や周りに置いて、井戸に感謝し別れを告げていました。

自社工場跡の井戸に手を合わせる志賀隆一郎さん

沼ノ内災害公営住宅進捗情報

入居説明会は2月12日に行われました。沼ノ内は募集定数40戸に対し、申し込み40世帯で、入居は4月を予定しています。

お知らせ

豊間地区

3・11東日本大震災
豊間区物故者追悼式典
- とき　3月11日(火)　午後2時開場
- 式場　しらた斎場塩屋崎
- 問い合わせ　ふるさと豊間復興協議会　☎0246-98-6100

薄磯地区

東日本大震災薄磯区追悼式典
- とき　3月11日(火)　午後2時開場
- 式場　修徳寺(当日来場できない方へ3月9日、午前11時から修徳寺で予定しています)
- 問い合わせ　薄磯復興本部　☎0246-39-4577

手作りのジオラマを2地区へ寄贈

1月23日、ふるさと豊間復興協議会と薄磯復興本部へ豊間、薄磯の震災前の町並みを再現したジオラマが、それぞれのまちに寄贈されました。寄贈したのは昨年3月までの5年間いわき市豊間市民サービスセンターに勤務していた鎌田真弓さん。昨年3月に定年を迎え、豊間地区で震災を住民と共に乗り越えた経緯から地域のためにジオラマを作りたいと、住まいの近くの平窪公民館でジオラマ制作の市民講座を受講。約3ヵ月で両地区ともに完成しました。

鈴木徳夫豊間区長、鳥居喜一郎薄磯区長から「住民のために、ありがたいことです」と感謝の言葉がありました。

薄磯復興本部にて、区長さんたちと鎌田さん(写真右から2番目)

薄磯地区の歴史を特別授業で学ぶ

考古資料館から借りてきた薄磯出土の縄文土器

1月21日、豊間小学校で6年生を対象に〈大国魂神社〉の山名隆弘宮司による、薄磯地区の歴史の特別授業が行われました。

この授業では、自分たちの学校の周りで、発掘された貝塚や縄文土器、土偶、矢じり、動物の骨などを検証して、当時の生活を想像したり、現代の薄磯、豊間地区に伝統として受け継がれていることを学び、郷土愛を深めました。

山名宮司は「想像することが大切です。豊間小の子どもたちは発想が豊かです」と感心していました。

縄文土器に興味津々の児童たちと山名宮司

“自分たちの街の新たなライフスタイルをめざして”シェアスペースUDOK.で活動する若者たち

平日の夜や週末、小名浜本町通りにある「シェアスペースUDOK.(うどく)」には、20～40代の若者が集まり、それぞれの創作活動に取り組んでいます。

“街”を意識するきっかけとなった震災

2010年秋、小松理虔さんとアーティストのたんようすけさんの2人が、好きなことをベースに創作活動ができる場所を作ろうと動き出しました。翌年、小名浜港近くの物件を決めようとしていた矢先、震災の津波被害により入居ができなくなり、震災から約2ヵ月後の5月、場所を本町通り沿いの、現在の場所に決めました。「本業以外の活動の場」というコンセプトから「晴耕雨読」の「雨読」をとり、「UDOK.」と名付けられました。「当初は個人の趣味の部屋という発想でしたが、震災を経験し、自分たちの暮らす街に目を向けるようになった。活動を街中に広げることで、ライフスタイルを創造・発信する拠点になればと意識するようになりました」と、たんさん。

小名浜本町通り芸術祭ではUDOK.も展示スペースとなりました

昨年10月、小名浜本町通り芸術祭を開催

UDOK.で活動する13名のメンバーは、各ジャンルで活動をする傍ら、街中でのスケッチ会、工場の夜景撮影会、早朝の港を歩き朝食を楽しむワークショップなどを開催し、小名浜の魅力を知ってもらう活動にも取り組んでいます。昨年10月には、ワークショップで制作した作品を小名浜本町通りの店舗シャッターに飾ってみようという発想から〈小名浜地区商店連合会〉の協力を得て、小名浜絆まつりの一環として「小名浜本町通り芸術祭」を開催しました。同連合会・作山勝広会長は「街づくりを盛り上げる若者の力に期待している」と話します。

スペースはギャラリーとしても利用されています

スペースの壁には名前のコンセプトとなった「晴耕雨読」と書かれています

高木市之助さんは「小名浜」を素材にデザインをしています

復興する自分たちの暮らす街を“楽しむ”

「復興が進めば、街がますます変化していきます。そんな中でも、自分たちの街を日常生活の中で楽しんでいきたい。今後も芸術祭などを開催し、小名浜の新たなライフスタイルと文化を育みたいです」と、メンバーは口を揃えます。若者の新鮮な発想や行動力は、街づくりや復興にとって地域の大きな財産となっています。

(仮称)竹町(たけちょう)通り整備について

小名浜港背後地に平成27年度末完成予定のマルチエンターテイメントモールには、年間800万人の集客が見込まれています。その集客効果を市街地へ波及させようと、その導線となる県道小名浜・四倉線へつながる市道(仮称)竹町通りの整備と魅力創出が計画されています。

小名浜まちづくり市民会議では、小名浜まちなか賑わいプロジェクト委員会にて、市と共に街の活性化計画、エリアマネジメントなどについて意見交換やプランを作成しています。昨年12月には、都市開発デベロッパーを講師に迎え勉強会を開きました。

整備が計画されている(仮称)竹町通り

竹町通りの一部は、津波浸水地域であることから、観光だけでなく住民の避難という側面も含め、街中への回遊道路としての役割を果たすべく、計画の実現に向けて取り組んでいます。

昨年の小名浜絆まつりでは、通りを市民に歩いてもらう取り組みも実施

小名浜さんかく倉庫で開催された勉強会には多くの住民が参加

新春特集

1月1日～31日　アクアマリンのお正月

期間中、お年玉プレゼントや巨大おさかなカルタ大会、フィギュア釣りなどのイベント、福袋の販売、お正月特別展示が行われました。

1月11日　小名浜新春寄席

いわき・ら・ら・ミュウなどで開催され、新春寄席に相応しく、真打ち・桂歌春さんが落語を披露。来場者は初笑いを楽しみました。

1月12日　小名浜諏訪神社　新春どんと祭

江戸時代から伝わる、正月飾りやお札、縁起物を焚き上げ、無病息災を祈るお祭で、小名浜諏訪神社三大例大祭の一つです。

1月19日　第57回小名浜地区一周駅伝競走大会

過去最多の104チーム約740人がエントリーし、小名浜を中心とした6区間26.4ｋｍのコースに8部門が設けられ、開催されました。

被災地の子ども応援イベントにぎわう

1月12日から19日までの８日間、福島県主催で「スマイルキャラバン」を開催。小名浜さんかく倉庫、いわき・ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテルを会場に、展示・ポケモンワークショップ・トークショーなどが行われました。

会場に「ピカチュウ」も登場

復興へ向けた動き

小名浜港東港の整備進む

国の直轄事業により、平成30年度の完成を目指し小名浜港東港地区に人工島を造り、港とする整備が進められています。また、港へのアクセス道路についても整備中です。昨年12月、小名浜港は全国初、かつ唯一となる特定貨物輸入拠点港湾の指定を国土交通大臣より受けました。

現在整備中の人工島は、東日本の石炭輸入拠点として大きな役割を果たすと共に、本市の経済復興と発展に寄与することが期待されています。

東港への幹線道路も建設されています

東港地区に建設中の人工島

災害公営住宅建設予定地の土地造成始まる

昨年12月より、永崎字町田地内に建設される小名浜地区の災害公営住宅の土地造成工事が始まりました。平成27年11月の入居を目指し、順次工事が進められます。

土地造成工事の様子（1月22日撮影）

いわき海星高校野球部～憧れのプロ選手から実技指導を受ける～

昨年12月21日、現役プロ野球選手10名が福島県内の高校球児を実技指導するシンポジウム「夢の向こうに」がいわきグリーンスタジアムで開催され、いわき海星高校野球部も参加しました。

千葉ロッテ・唐川投手から指導を受けた2年生の大河原君

お知らせ

【アクアマリンのイベント】

●3月1日（土）・3月2日（日）
ちりめん細工体験教室

※前号で、2月22日（土）・23日（日）と掲載しましたが、上記日程に変更となりました。

中之作・清航館で「つるし雛飾り祭」開催

２月１日から３日間、清航館を会場に行われました。清航館は、中之作プロジェクト「直してみんかプロジェクト」により、津波被害に遭った古民家をリノベーションしたものです。会場が広くなったことから、例年以上の数のつるし雛が飾られ、連日多くの見物客が訪れました。

今年のメイン会場となった清航館

江名小6年生の作品も展示されました

美しさも、爪跡も…
空から向き合う“本当のいわき”

モーターパラグライダーとの出会い

モーターパラグライダーでいわきの景色を空から撮影し続けている、山田町在住の酒井英治さん。

幼い頃から機械いじりが大好きだった酒井さんは、高校卒業後にバイクの免許を取得。ロードレースに出場するほどの腕前で、4年間セミプロとしてサーキットに参戦しましたが、自分の実力に限界を感じ引退しました。

それから月日は流れ、平成6年、友人に誘われたのをきっかけに、市内にできたモーターパラグライダースクールに通うように。“エンジン付き”なことも魅力のひとつでしたが、初のフライトで見た景色に感動した酒井さんは、フライトするのも、美しい景色を見るのも楽しくて、どんどんはまっていったそうです。そして、「空から見た綺麗な景色を撮影できないか」と考え、始めたのが空撮でした。

それからというもの、いわきの美しい姿を撮影し続けた酒井さん。ですが、3年前のあの日から、いわきの“美しさ”だけをカメラに収めることは困難となってしまいました。

幸い自宅に大きな被害はありませんでしたが、放射能を心配し、3月12日には家族で県外へ避難したという酒井さん。

ふるさと、いわきへの思いを語る酒井さん。「地上から手を振ってくれる地元のみなさんを撮るのが好きなんです」と、嬉しそうに微笑んでいました

故郷のため、自分だけができること

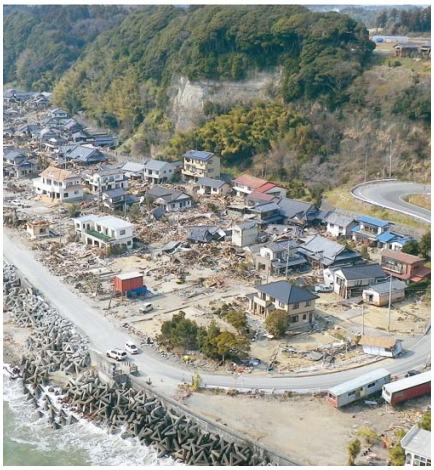
しかし、いわきに残っている友人たちがボランティア活動を行っていることを知った酒井さんは、「自分はのうのうと逃げてしまった」と後ろめたさを感じてしまったそうです。「自分もいわきに戻ってできることはないか」と考え、浮かんできたのが「空撮」でした。市内の現状をカメラに収め、大震災の記録を残す。これが、その時酒井さんだけができる、重要な活動でした。

震災後初のフライトは4月1日。奥さんとお子さんを避難先の新潟に残し、ひとりいわきに戻った酒井さんですが、フライト前には3つの不安があったそうです。まず、放射能の問題。それと、原発がまたいつ爆発するか分からないという不安。そして最後に、被害に遭った地区の上空を、モーターパラグライダーで飛ぶのは不謹慎ではないか、という心配でした。しかし、被害の状況を残すことの方が大切だと思った酒井さんは、夏井川の河口付近から離陸。アクアマリンふくしま周辺までの海岸沿いをカメラに収めました。

その時見た光景は、それまで見ていたいつものいわきとはまったく違い、ショックで涙を流しながらも撮影を続けたそうです。

その後も昨年11月に、自身が作成するDVD「かもめの視線」シリーズ、第3弾を発売。「震災前と変わらない、いわきの綺麗な姿はもちろん、被害の現状や復興の歩みも、みなさんに伝えたい」と酒井さん。これからも、いわきを空から見守り続けます。

空から見た春の錦町須賀地区（写真提供:酒井英治）



空から見た岩間地区の震災前（写真上）と震災後（写真下）の様子（写真提供：酒井英治）

スカイフォト
サービス代表
酒井英治さん(49)

空撮を始める前は、正直「いわきはたいしたことない」と思っていました。でも、人生初のフライトをした時、空から見たいわきの海はエメラルドグリーンに光り輝いていて、まるで南国のようでとても感激したのを覚えています。

震災からおよそ3年。防波堤や漁港など、空から見てもいわきの復興が進んできているのが分かりますが、沿岸部の町並みはまだ変わりありません。いわきの美しさとともに、決して目を背けてはいけない被害の現状も、しっかり伝えていきたいです。

勿来 復興へ向けた動き

南部地区グランドデザイン策定に向けて

1月28日、小浜・岩間地区を対象とした、第1回南部地区復興グランドデザイン策定会議が行われました。

地震や津波、さらには原発事故がもたらした風評などにより大きな被害を受けた同地区。このグランドデザインは、同地区が今後どのように活気を取り戻し、復興を実現していくかを協働で考え、その将来像を地区の共通目標として定めることを目的としたものです。

第1回となった今回は、市の職員が策定の趣旨や、市内他地区のグランドデザインを参考として紹介。また、南部地区復興グランドデザイン（素案）についての説明も行なわれ、意見交換や質疑応答、策定までの取組み方法についても話し合われました。

今後は、ワークショップによる作業などを交えながら策定を進める予定です。

会場となった勿来支所2階会議室には、同地区区長や地元NPOの役員など、およそ25名が集まりました

開催告知

なこその希望 アートフェス2014 ～つなごう未来へのバトン～

3月9日（日）※小雨決行

〈受付開始〉 8：30～
〈メイン会場〉 勿来市民会館
〈参加費〉 500円
〈参加受付〉 webサイトまたは郵送ハガキでの申し込み。（http://nakoso.net/）
※当日参加も可能。

●アート会場
- 錦須賀…防潮堤に絵を描こう
- 岩間…砂浜で流木アート制作
- 小浜…アート素材収集、海岸清掃

●メイン会場
- 「味じまん　なこその希望　B級カレー祭り～おいしいカレーを食べちゃいまSHOW～」
- なこそ交流スペースのサロン活動作品展示、販売

※各会場には、バスが巡回します。

【問い合わせ】
なこその希望アート2014実行委員会
☎0246-63-5055
〒974-8223　佐糠町東1丁目19-5
なこその希望アートフェス2014実行委員会
参加受付係

みんなで行う「まちづくり」

1月20日、「いわき市南部地区まちづくり事業」第3回実行委員会が開かれました。

同事業は、今夏に行われる「市民討議会」に向けたもので、委員会役員が集まって勉強会を行ったり、南部地区について意見交換をするなど、住みよい地域を目指して話し合うというもの。1、2回では、役員の顔合わせやスケジュール確認などが行われましたが、今回からはいよいよ本格的な話し合いが始まりました。

約30名の参加者が4班に分かれ、市民の視点から、南部地区に何が必要か、どこが問題か、などの意見をそれぞれ出し合い、最後には班ごとに発表しました。今後、この意見をもとにテーマを選出し、討議会へ向けた準備を進めていく予定です。

なお、第4回は2月24日19時から、勿来支所3階大会議室で開催予定。一般の方も参加可能ですので、参加を希望される方は「勿来ひと・まち未来会議」事務局まで。☎0246-77-1590

室井潤委員長（写真右上）を中心に意見を出し合う役員のみなさん。地域住民が誇れる南部地区を目指して、様々な意見が挙がりました

新年を彩る鮮やかな”雛”たち

1月4日から31日、今年も〈いわきかまぼこ工房ゆめギャラリー〉で、勿来地区在住の小野悦子さんと小松スミ子さんによる「つるし雛飾り姉妹展」が開催されました。

今年は、台を使って飾り付ける「台飾り」をメインに展示。また、今年の干支である馬の雛も多く展示されました。

「リピーターの方が多く、みなさん毎年楽しみにしてくださっているので、やりがいがある」と話す小野さん（写真右）と、小松さん（写真左）

色とりどりの可愛らしい馬たち。他にも、うさぎや鳥など、様々な動物をモチーフにした雛がたくさん展示されました

黒い台がアクセントとなって、雛飾りをより一層鮮やかに、美しく見せる「台飾り」

勿来の四季折々

今回のテーマは 寒空の下、冬を楽しむ

◀今年も鮫川にやってきた白鳥たち

沼部町の鮫川河川敷に、今年も白鳥がやってきました。毎年11月中旬頃になると、およそ200羽の白鳥がシベリアから訪れるという同河川敷。この日は、北茨城市から毎年見に来ているという親子が、優雅に水面を泳ぐ白鳥たちを見て楽しんでいました。

いわき市 ふるさとだより 第33号　平成26年2月20日発行
●発行:いわき市　●編集:有限会社いまぁじゅ　ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411　福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp　http://www.furusatodayori.com

避難所に災害時でもつながりやすい電話回線を設置

東日本大震災の発生当時、問題となった通信回線の混乱。家族、知人等と連絡が取れないという事象が発生し、多くの市民が不安な日を過ごしました。

これをふまえて、12月16日、いわき市と東日本電信電話㈱福島支店は、大規模災害発生時における通信手段の確保を目的として、特設公衆電話の事前設置について覚書を締結しました。

特設公衆電話とは、避難された方などが無料で使用できる、災害時優先電話のこと。今後、市内の指定避難所となる小・中学校や公民館などに専用の電話回線が整備されます。

NTT福島支店の志村光昭支店長(写真右)と覚書を締結する清水敏男市長(写真左)

ふれあい通信　応急仮設住宅や雇用促進住宅のイベント紹介

中央台高久第一応急仮設住宅
●美味しいみそになぁれ

1月18日、「平友の会」主催でみそ作りが行われました。今回参加したのは14名のみなさん。柔らかく煮た大豆を一生懸命潰し、こうじと塩を入れ、心を込めて混ぜていました。半年後、天地返しをして、さらに半年寝かすと色もつき美味しいみそが出来上がるそう。参加者はそれぞれ袋に入れ、完成を楽しみにしながら持ち帰りました。

2人組のペアになり、「いいにおいだね」と話しながら大豆を潰していました

イベント情報

春の交流サロンフェスタ

●日時　3月1日（土）10：00～
●メイン会場　いわき市生涯学習プラザ（ティーワンビル4・5F）
●特設会場　平一町目公園（生涯学習プラザ向い）
作品展示会やサロン対抗トーナメントイベント（囲碁・将棋）のほか、屋台も出店されます。

ライフプランセミナー

テーマ「住宅取得に必要な不動産の基礎知識」
●日時　3月8日（土）10：00～12：00
●場所　いわき産業創造館（ラトブ6F）セミナー室B
●問い合わせ　市復興支援室　☎0246-22-1196

相談コーナー

●各支所での弁護士による無料法律相談会〈3月の日程〉

勿来支所／13日(木)、四倉支所／18日(火)、小名浜支所／27日(木)
◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象
相談時間：14：00～17：00の間で30分程度（要予約）
〈予約・問い合わせ〉市広報広聴課☎0246-22-7438

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください！

●メールの方／furusato@asally.co.jp
携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。
●FAXの方／☎0246-26-5157
●おたよりの方／左記編集室まで

いわきあいあいで情報発信中!!
いわきあいあい　検索　Click

お知らせ

3.11いわき追悼の祈りと復興の誓い2014

今年も、いわき芸術文化交流館アリオスで「3.11いわき追悼の祈りと復興の誓い2014」が行われます。東日本大震災から3年を迎え、いわき市民がひとつとなって、犠牲になられた方々を追悼し、復興への決意を全国に発信します。

式では、犠牲者名簿の奉安や黙とうに続き、市長による式辞や遺族代表による式辞、献花などが行われる予定。そのほか、復興記録映像の上映や泉中学校合唱部による合唱、市内の高校生による復興への誓いも行われます。また、自由献花の時間も設けられます。

※なお、平成26年3月11日(火)14時46分から1分間、全市的にサイレン吹鳴を行います。

【日時】平成26年3月9日(日)　14:45～17:00
【会場】いわき芸術文化交流館アリオス　大ホール
【服装】礼服でなくても構いません
【入場】無料・事前申込み不要

昨年の様子。市民が自由に献花する時間も設けられました

お知らせ

わんぱくひろば無料開放 元気いっぱい子どもたち

1月21日、<いわき・ら・ら・ミュウ>内にある「わんぱくひろば　みゅうみゅう」が無料で開放されました。

広島県福山市にある<なかやま牧場>の増成幸子社長が「福島の子どもたちに元気になってほしい」と支援。1月から約半年の間、毎月21日に無料で開放されます。なお、21日が土、日、祝日の場合は前後どちらかの平日となります。

好きなおもちゃを手に取り自由に遊ぶ子どもたち

【営業時間】10:00～18:00
【利用時間】
平日:90分ごとの完全入れ換え制
土・日曜、祝日:50分ごとの完全入れ換え制
【通常利用料金】
大人・子ども(0歳～)一律　100円

表紙の人　豊間小学校2年生

写真左から
●三瓶愛実(まなみ)ちゃん　●高橋星陽(せいや)くん　●門馬響(ひびき)くん　●荒川愛海(あみ)ちゃん

いつも元気な豊間小学校の2年生たち。通い慣れた学校の廊下と教室で撮影しました。3年生の目標を聞いたところ、みんな「下級生の面倒を見たい」と口を揃えて応えてくれました。やさしいお兄さんとお姉さんで新一年生も安心ですね。